

## 第52次南極地域観測隊の編成(案)

区 分	部 門	隊員数	
越冬隊	副隊長(越冬隊長)	1名	
	副隊長(越冬副隊長)	1名	
	基 本 観 測	気象定常	5名
		モニタリング観測	3名
	研 究 観 測	重点研究観測	2名
		一般研究観測	1名
	設 営	機 械	6名
		通 信	1名
		調 理	2名
		医 療	2名
		環 境 保 全	1名
		多目的アンテナ	1名
		LAN・インテルサット	1名
		建 築・土 木	1名
野 外 観 測 支 援		1名	
庶務・情報発信	1名		
越 冬 隊 計		30名	
夏隊	隊長(夏隊長)	1名	
	副隊長(夏副隊長)	1名	
	基 本 観 測	電離層定常	1名
		海洋定常	1名
		測地定常	1名
		モニタリング研究観測	2名
	研 究 観 測	重点研究観測	7名
		一般・萌芽研究観測	13名
	設 営	建 築・土 木	3名
		機 械	2名
庶務・情報発信		1名	
夏 隊 計		33名	
合 計		63名	

※ 夏隊の重点研究観測担当2名及び一般研究観測担当1名は、「しらせ」には乗船しない。

## 第5 2次南極地域観測隊同行者編成（案）

### 1. 同行者枠について

- 「しらせ」の乗船収容人数は、80名。一方で第5 2次南極地域観測隊は63名により編成予定であるが、そのうち3名については、往復「しらせ」を活用しない。
- このため、同行者枠は20名となる。【80名－（63名－3名）＝20名】

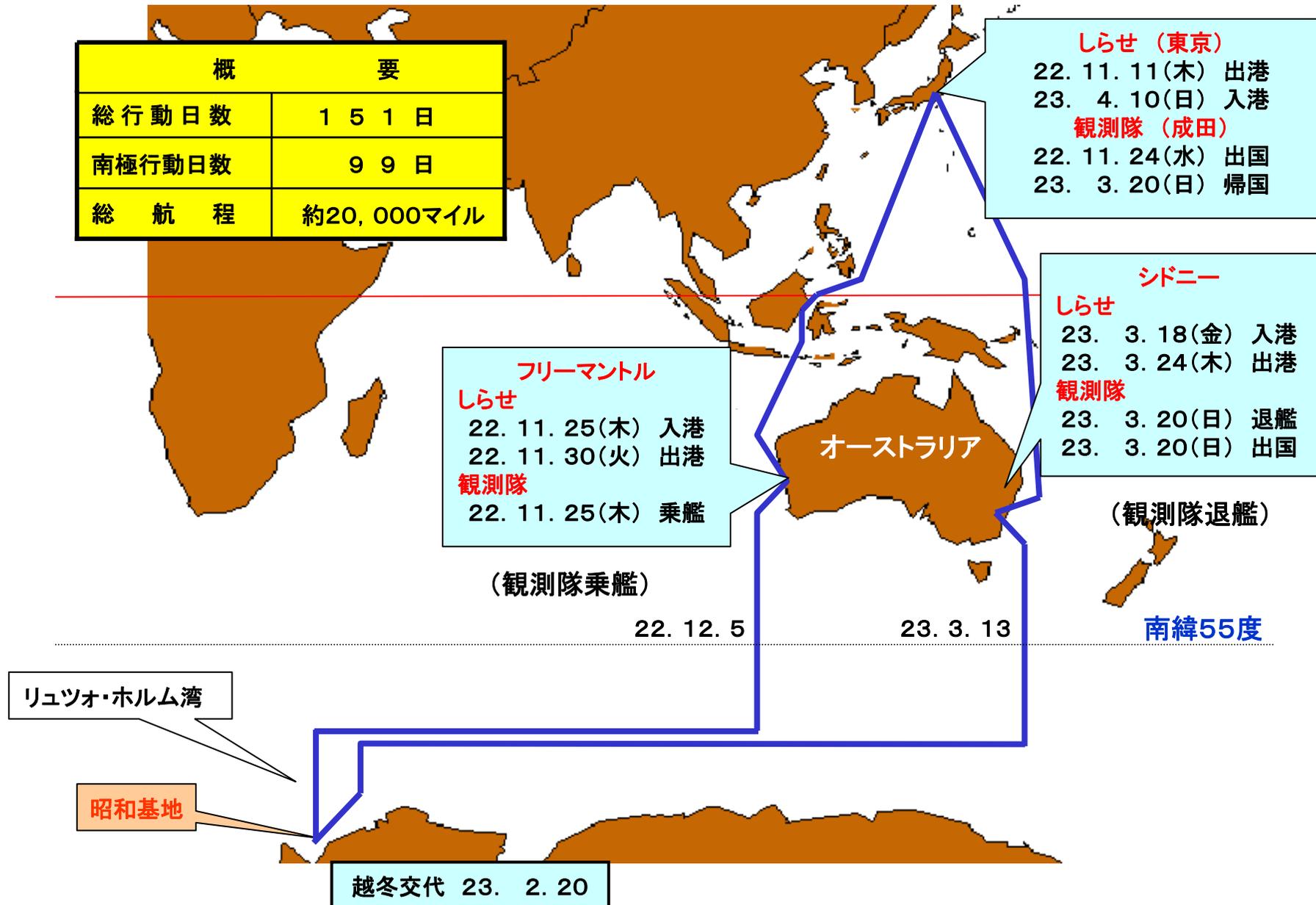
### 2. 同行者編成について

- 同行者20名の編成は、以下を基本に調整を図る。

分類	同行目的	人数 (計画)
報道関係者	第5 2次南極地域観測隊に同行し、昭和基地等において現地取材、報道を実施。	2
教育関係者	小中高等学校の教員を昭和基地に派遣し、衛星回線を通じて「南極授業」を実施。	1
技術者	「しらせ」の航行安全に必須な操船指針作成のための諸試験を実施、南極昭和基地大型大気レーダーを建設。	6
外国人研究者、国内研究者、大学院学生、行政機関職員 等		11
合計		20

注) 人数は、現時点での計画数であり、今後の調整を経た上で、南極地域観測統合推進本部総会（連絡会を含む。）において決定される。

# 第52次南極地域観測隊及び「しらせ」行動計画(素案)



## 資料 8

南極地域観測統合推進本部  
第17回観測事業計画検討委員会  
H22. 3. 19

## 平成22年度南極地域観測事業関係予算案の概要

(単位:千円)

事 項	前年度 予算額 (A)	H 2 2 要求額	H 2 2 予算案 (B)	対前年度比較 増△減額 (B)-(A)	備 考
南極地域観測事業費	5,736,000	3,520,297	3,509,831	△ 2,226,169	
観測隊員経費	77,451	77,451	75,120	△ 2,331	・極地観測手当 ・観測隊員派遣旅費
観測部門経費	197,963	197,963	197,963	0	・定常観測経費
海上輸送部門経費 [※1]	5,438,397	3,222,694	3,215,093	△ 2,223,304	・航空機及び船舶運航 経費
本部経費	22,189	22,189	21,655	△ 534	・本部総会開催経費等
南極地域観測船建造費 [※2]	9,954,000	0	0	△ 9,954,000	
小 計(A)	15,690,000	3,520,297	3,509,831	△ 12,180,169	
国立大学法人運営費交付 金(特別経費)(B) ＜国立極地研究所＞ [※3]	1,326,595	1,326,595	1,326,595	0	・観測部門経費(研究 観測経費、外国人共同 観測費) ・設営部門経費(基地 等設営経費)
合 計(A+B)	17,016,595	4,846,892	4,836,426	△ 12,180,169	

※1 H21は次期輸送用ヘリコプター2号機購入費 2,720,040千円含む(4年国債の4年目)＜H21に完成＞

※2 H21は次期南極観測船建造に係る経費 9,954,000千円(5年国債の5年目)＜H21に完成＞

※3 大学共同利用機関法人情報・システム研究機構の運営費交付金の一部

## 先代「しらせ」後利用の状況

- 先代「しらせ」の後利用に関する審査結果について  
(平成21年11月9日報道発表(南極地域観測統合推進本部))  
..... 1
  
- 「地球環境」の交信・共創の場を目指して、SHIRASE第2の船出  
～ 2月10日(水)海上自衛隊横須賀地方総監部にて引渡し ～  
(平成22年2月12日報道発表((株)ウェザーニューズ))  
..... 3



平成21年11月9日

## 先代「しらせ」の後利用に関する審査結果について

南極地域観測統合推進本部（本部長：川端達夫文部科学大臣）では、先代「しらせ」の後利用に関する再公募を受け、4団体より提出された利用計画書に関し、同本部の下に設置した「しらせ」後利用に関する検討委員会（委員長：野本敏治財団法人溶接接合工学振興会理事長）（以下「委員会」という。）において審査を行ってまいりましたが、このたび、委員会における審査結果を踏まえ、「株式会社ウェザーニューズ」の利用計画を選定することといたしましたので、お知らせいたします。

今後、先代「しらせ」は、防衛省において引渡しに向けた手続きを進めることとなります。

### 1. 公募結果及び審査方法

- 平成21年7月17日から9月11日まで公募実施。結果、以下の4団体が応募。
  - ・ 沖縄県先代「しらせ」誘致研究協議会（沖縄県浦添市）
  - ・ 株式会社大柿産業を代表とするグループ（広島県江田島市）
  - ・ 株式会社ウェザーニューズ（東京都港区）
  - ・ 特定非営利活動法人日本環境技術協会（大阪府大阪市）
- 9月15日以降4回にわたり委員会を開催し、上記4団体から提出のあった先代「しらせ」利用計画書を審査。
- 審査は、「先代「しらせ」の後利用に関する公募要領」に示した売払いに関する国側の条件等を考慮しつつ、利用目的・方法、設置場所・方法、船舶修理・改造計画、管理運営、資金計画等の観点から、書面審査、ヒアリング及び現地調査により総合的に実施。

### 2. 審査結果

- 各団体とも、資料作成や確認事項への回答などに精力的に対応。地元への思い、地元代表としての気概、「しらせ」誘致に向けての熱意等については高く評価。

- 他方、「沖縄県先代「しらせ」誘致研究協議会」、「株式会社大柿産業を代表とするグループ」及び「特定非営利活動法人日本環境技術協会」の利用計画は、収支計画などの資金面、係留の安全性などの技術面、維持管理を含めた事業の継続性等に懸念。
- 一方、「株式会社ウェザーニューズ」の利用計画は、係留方法の強化に関する指摘等がなされたものの、全体的に計画の完成度が高く、計画実現の可能性が十分にあると評価。
- これらのことから、「株式会社ウェザーニューズ」の利用計画を委員会として選定。

### 3. 委員会名簿

- 「しらせ」後利用に関する検討委員会（五十音順）

	大 津 皓 平	東京海洋大学先端科学技術センター特任教授
	北 川 弘 光	元北海道大学大学院工学研究科教授
	小 堀 信 幸	財団法人日本海事科学振興財団船の科学館学芸部長
	鈴 木 清	鈴木公認会計士事務所
	田 中 豊	エムエイチアイマリンエンジニアリング株式会社顧問
	富 田 康 光	京都職業能力開発短期大学校長
	内 藤 靖 彦	国立極地研究所名誉教授
(委員長)	野 本 敏 治	財団法人溶接接合工学振興会理事長
	堀 由紀子	株式会社江ノ島マリンコーポレーション代表取締役会長

#### 南極地域観測統合推進本部

<本件に関する照会先>

文部科学省研究開発局海洋地球課

電話：03-5253-4111（内線4460、4144）

<「しらせ」の売払いに関する事>

防衛省経理装備局艦船武器課

電話：03-3268-3111（内線21012）



発行日：2010年02月12日

## 「地球環境」の交信・共創の場を目指して、SHIRASE第2の船出

～ 2月10日(水)海上自衛隊横須賀地方総監部にて引渡し～

株式会社ウェザーニューズは、長年にわたり南極観測、地球環境の観測に貢献してきた砕氷艦・先代「しらせ」を日本の貴重な資産と考え、気候変動・地球環境をグローバルに広く交信・共創する実践の場“SHIRASE”として、新たなテーマをもった生きた存在として再生していきます。

2月10日(水)には、新たな船出に向けて出港する“SHIRASE”の引渡し、海上自衛隊横須賀地方総監部にて行われました。引き渡しには、海上自衛隊、文部科学省、しらせOBの方々、当社社員など150人が参加し、先代「しらせ」のこれまでの功績への感謝と新たな船出を祝しました。

海上自衛隊の畑田実氏(横須賀地方総監部幕僚長)からは「新たな船出は関係者の一人として嬉しい。娘をとつがせるような気分です」という挨拶に続き、文部科学省の丸山修一氏(研究開発局海洋地球課長補佐)からは「活用に向けた思いをぜひ実現していただき、ウェザーニューズのもと“しらせ”がますます進化することを願います」というお話をいただきました。

当社の石橋博良(代表取締役会長)は、「愛情を注いでこられた方々の思いをひしひしと受けとめ、オールジャパンで環境のシンボルとして世界に発信していきたい」と挨拶しました。

先代「しらせ」は、海上自衛隊横須賀音楽隊の心のこもった演奏の中、集まった皆さんに見送られて横須賀を出港しました。

SHIRASEを「地球環境」の交信・共創の場とするべく準備を進めますので、関心のある多くの皆さんの参加をお待ちしております。



### ■今後のSHIRASEの予定 ※予定は諸事情により変更する場合があります。

2月10日(水)	海上自衛隊横須賀総監部から引き渡し
↓	三菱重工業本牧工場にて船体の検査、必要箇所の補修・修理 ＜神奈川県横浜市中区錦町1＞
3月下旬頃	船橋港に曳航・着棧 ＜千葉県船橋市高瀬京葉食品コンビナート岸壁＞
5月2日(予定)	グランドオープン

SHIRASEは、生きた存在として存続させることを目指し、固定するのではなく、一定の条件のもと、港に係留します。係

留場所は、首都圏に近く当社のグローバルセンターがある千葉県を予定しています。今後、当面の間は、船橋港(船橋市高瀬京葉食品コンビナート岸壁)に係留する予定です。その後は、千葉港や幕張沖などへの移動も検討しています。いずれの場合も、今後、県、市、港湾関係者とともに、実現に向けた詳細を検討していきたいと考えていきます。

#### 株式会社ウェザーニューズ(東証1部 <4825>)について

世界主要国 / 地域に31の営業拠点を持つ、世界最大の民間気象情報会社。

海、空、陸のあらゆる気象現象の世界最大規模のデータベースを有し、独自の予報により、航空、海運、流通、自治体などの各業務の問題解決情報を提供している。

一般個人に対しては、携帯電話、インターネット、BSデジタル放送等のメディアを通じて、個人の生活を支援する各種情報を提供。

ホームページ : <http://weathernews.com/>

お問合せ先 : <http://weathernews.com/ja/nc/contact/>

 [上に戻る](#)